

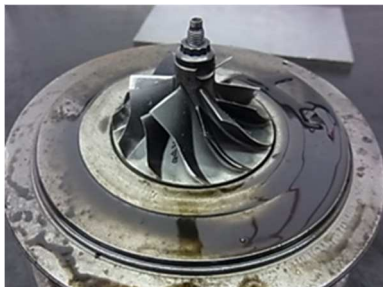
ブリーザーからのオイル吸込みが引き起こす諸問題(重要)

VGターボ搭載車両において、ブリーザーからのオイル吸込みが諸問題が多発しています。オイル吸込みの根本対処をしないと、不具合を繰り返します。特に多走行車(ブローパイの増加)はご注意ください。

「白煙」「ターボからのオイル漏れ誤診」「ターボ及びエンジンのオーバーラン」

ブリーザーからオイルが吸込まれ、ターボ吸気入口に付着

この様な場合は要注意!



コンプレッサーハウジング内に溜まったオイル
※ターボから漏れたオイルではない。

エンジンで燃焼し VGノズル部 及び DPF にカーボンが堆積

VGノズルの作動不良となり位置制御異常を検知、P0045等のエラーコードの要因となる。

※VGノズルが固着してしまうと、モーターアクチュエーターに大きな負荷が掛かり、回路の焼損、モーターのトルク低下に至る事がある。

また、排気経路上ターボの下流にあるDPFにも炭化物が堆積し再生不良の要因となる。

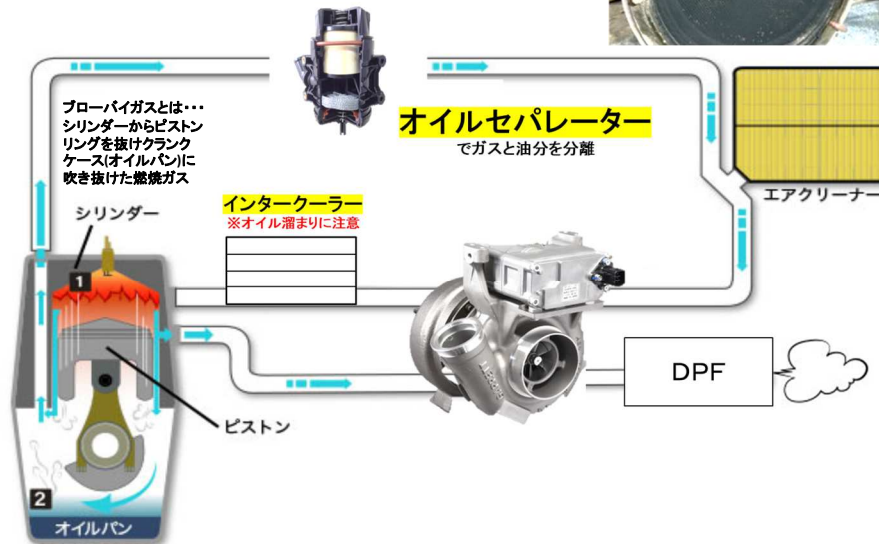


VGノズルにカーボン蓄積

DPFにカーボン蓄積 再生不良



<ブローパイガス還元イメージ>



エンジンから出たブローパイガスに含まれるオイルがセパレーターで分離されずターボに吸込まれ、インタークーラーからシリンダーに入り、白煙又はカーボンとなる。(右図の通り)

※低年式、多走行のエンジンはブローパイガス量自体が増加し、特に注意が必要。

また、吸込んだオイルがインタークーラーに溜まり、エンジンに一気に吸い込まれると、エンジンの異常燃焼/オーバーランを引き起こし大破する。
必ずインタークーラーの点検・洗浄を実施してください。